

「中国四国の経済交流」

司 会 柏 谷 増 男（愛媛大学工学部教授、地域経済研究センター客員
研究員）

発 言 者 大 亀 孝 裕（ダイキ㈱社長、愛媛経済同友会特別幹事）

東 日出男（㈱フジ常務取締役）

中 村 成 朗（中村角㈱代表取締役社長、広島商工会議所副会頭）

景 山 一功朗（合資会社一文字家社長、松江観光協会副会長、松
江商工会議所観光部会長）

櫟 本 功（広島大学経済学部附属地域経済研究センター長）



1. はじめに

柏谷：本日は中国四国の経済交流というテーマで、主に中国四国の経済界の皆様方に、経済交流の実態と将来ということにつきましてお話をしていただければと思っています。こういうパネルディスカッションあるいはシンポジウムをやる時によく問題になるのは、どのように参加者の皆さんの敬称をお呼びしたらいいかということです。それぞれ呼び方があると思いますが、私は自分の持論としては二種類の人しかいない。それは明確に二分法で区分されるわけですし、どういう人がいるかと言いま



柏谷 増男 氏

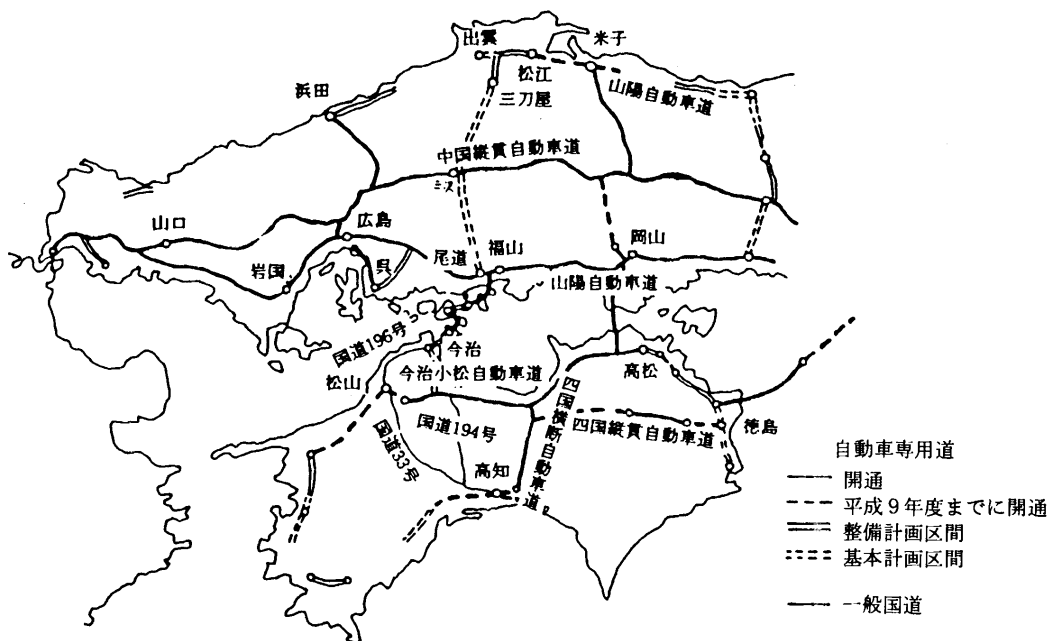
すと社長と先生であります。どうやって社長と先生を分けるかと言いますと、これは昨今話題になっています官官接待に習いまして、接待をいつもして頂くのが先生です。接待をされる方はどういう人種かということを皆さんが想像してみると、だいたいそういう方は先生と呼ばれている人であります。私も先生の名に恥じなくいつも頂いているばかりです。これに対しましてお金を払って頂くのが社長さんですし、これはお金を払うか払わないでほしい見事に分けられるわけです。そういうわけで今日はたくさんの社長さんに来て頂いているわけですが、その時々によりましてそういう呼び名は変わるわけです。今日は恐れ入りますが、お名前の後に誰々様もしくはさんで呼ばさせていただきますのでご了解を頂きたいと思えます。

私のお隣にいますのが大亀さんです。皆さんもご存じのように株式会社ダイキの社長さんです。浄化槽等のメーカーさんですが、ディックというホームセンターを経営されていまして、今日のお話はどちらかというと中四国の連携ですので、ディックに関するお話を戴ければと思っております。次にフジの東さんです。ご存じのように元々広島企業でして、それが松山にやってきて現在は松山が本社ということで、中四国に展開されています。このお二人の方々に愛媛から中国側への企業展開というような形で議論をして頂きたいと思えます。それから広島商工会議所の副会頭でいらっしゃいます中村さんに、それではこういうふうな愛媛側からの中国への経済交流につきまして、中国側あるいは広島側はどういうふうにご覧になっているかということをお話をして頂きたいと思えます。それからそのお隣にいらっしゃるのが松江の会議所の景山さんです。景山さんには、今回のテーマが瀬戸内を挟んだ交流ということですから、当然この交流というのは更に山陰へまた南四国へ広がっていくものでして、そういう山陰からこの中四国の経済交流をどういうふうにご覧になれるかというところをお話をして頂ければと思っています。そして先程基調講演をして頂きました櫛本先生のお話を戴ければと思っております。

2. 中国四国の交流について

柏谷：パネラーの皆さんにお話をして頂く前に、簡単に中四国の交流につきましておさらいをさせていただきます。ちょっとOHPをお願いします（図1参照）。中国四国の交通施設としましては、高速道路・新幹線・在来線の鉄道や船舶等があるわけですが、現在のところはこの黒い線が道路で言えば開通しているところであります。点線が平成9年までに開通するということですので、皆様もご存じのように東西軸の整備はある程度進んでいるということです。南北軸につきましては東側のルートはかなり整備されていますが、この西側のルートが少し整備が遅れているという状況になります。しかしながら三橋が完成する時点になると、かなり南北のルートというのも強くなってくるのではないかと考えられます。

図1 中国四国地方の主要道路



次に中国四国地区の交流というのはどういう指標で見たらいいのかというのがなかなかいいデータがありませんので、これは単に一つの事例と考えて頂いたらいいと思いますが、県外に転出される方あるいは県外から転入される方が、各県にとってどの県から

来られる人が多いかということを見たわけです(表1参照)。ちょっとお分かりになりました

表1 県外転入・転出者の地域別割合(平成2年国勢調査による)

	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	首都圏	関西圏	福岡
鳥取入		0.138	0.092	0.103	0.031	0.004	0.007	0.009	0.004	0.120	0.295	0.023
鳥取出		0.103	0.085	0.100	0.026	0.004	0.008	0.008	0.004	0.180	0.299	0.025
島根入	0.107		0.052	0.194	0.073	0.005	0.006	0.010	0.004	0.120	0.232	0.037
島根出	0.086		0.056	0.217	0.055	0.002	0.005	0.008	0.004	0.161	0.230	0.028
岡山入	0.031	0.027		0.171	0.041	0.013	0.044	0.035	0.015	0.120	0.279	0.041
岡山出	0.025	0.017		0.149	0.031	0.009	0.039	0.024	0.010	0.196	0.283	0.038
広島入	0.021	0.060	0.094		0.142	0.008	0.019	0.050	0.008	0.157	0.161	0.071
広島出	0.017	0.037	0.093		0.094	0.007	0.016	0.031	0.005	0.258	0.197	0.071
山口入	0.012	0.032	0.041	0.211		0.006	0.008	0.021	0.005	0.151	0.129	0.157
山口出	0.008	0.023	0.036	0.220		0.005	0.006	0.015	0.003	0.218	0.137	0.145
徳島入	0.005	0.003	0.030	0.037	0.015		0.120	0.089	0.082	0.114	0.307	0.020
徳島出	0.002	0.004	0.029	0.032	0.011		0.129	0.068	0.052	0.160	0.322	0.020
香川入	0.005	0.004	0.070	0.048	0.011	0.092		0.150	0.070	0.135	0.224	0.032
香川出	0.003	0.003	0.065	0.050	0.010	0.060		0.110	0.042	0.201	0.256	0.036
愛媛入	0.004	0.006	0.042	0.090	0.027	0.047	0.118		0.073	0.153	0.224	0.037
愛媛出	0.003	0.004	0.040	0.099	0.020	0.034	0.102		0.047	0.206	0.237	0.039
高知入	0.004	0.006	0.036	0.030	0.012	0.072	0.091	0.131		0.150	0.252	0.026
高知出	0.003	0.003	0.033	0.030	0.009	0.060	0.094	0.101		0.211	0.256	0.028

注) 首都圏は千葉、埼玉、東京、神奈川の1都3県、関西圏は京都、大阪、兵庫の2府1県

くいかもかもしれませんが、この縦に県名がありまして左の方あるいは上の方が中国地方で、右の方あるいは下の方が四国地方です。この表からお分かりのように中国は中国、四国は四国でわりと繋がりがあるということで、この表だけではちょっと分かりませんので、それをもう少し整理して図式化したものを次にお見せします。赤がだいたい概ね20%位、つまり島根県から出ていく人の出て行き先は20%位が広島県だというようなことを表していきまして、これで見えてきますと、山陽側は相互の交流があり、また山陰側は相互の交流がある、それに比べて山陰と山陽の交流というのは少し少ないのかなと、それでもまあまあある程度はあるということです。四国側も同じような状況でして、香川・徳島・愛媛というふうな東西側はある程度の交流はあるが南北側はやや弱いというわけです。さて、肝心の瀬戸内海を挟んだ対岸交流ですが、愛媛・香川からそれぞれ広島・岡山へはある程度出ていくわけですが、広島から愛媛、岡山から香川というのはそれほど四国側のラブコールに比べれば少し弱いところがあるのかなというような気がします。なお、この北四国側と山陰あるいは山陽側と南四国の高知・徳島といったところの交流というのは、残念ながらまだまだ非常に少ないという状況です。

以上簡単なおさらいをさせて頂きましたが、それではこれから中国四国の現状の交流について、パネラーの皆様からお話を戴きたいと思います。順番に恐れ入りますが大亀さんからお願い申し上げます。

3. ディック出店の足どり・瀬戸内ドミナントエリア構想

大亀：ダイキの大亀です。皆さんのお手元にレジュメをお渡ししていると思いますが、その順序で簡単に私どもの中国への特に広島・岡山に進出をしまして、ホームセンター・ディックを開店しましたその経緯等についてご報告申し上げたいと思います。先程、櫛本先生から講演の中で中四国は非常に環境が良く、刺激を求めないというふうなお話があったわけです。私どももその通りです。丁度ご承知のように瀬戸大橋が着工しまして、その時点で果して我々卸部門も持っていましたので、卸並び



大亀 孝裕 氏

にメーカーそしてまた小売業のディック、これが大橋完成によって如何に影響を受けるかというふうな危機感を初めて持ちまして、幹部を2班に分けて岡山の流通センターそして鷺羽山に立って、架橋地点から四国を眺めて四国の経営者としてどうあるべきなのか、また岡山並びに広島また関西の企業はどう四国を見るであろうかというふうなことをいろいろ議論したわけです。帰りまして、現在の松山大学の宮崎学長にお越しを頂いて、その時のテーマが「四国経済は本四架橋開通でどう変わるか」というふうなお話を頂いたわけです。その時に先生は、四国は観光ブームに湧くであろうと、しかし松山の地位は些か落ち込むのではないかということで、私は非常にこの先生のご指導で危機感を幹部の中で論議する中で、僅かその時に県内に4～5店の店舗を開店したぐらいでしたが、瀬戸内ドミナントエリア構想ということで、この瀬戸内、香川・広島・岡山に出店の決意をしたわけです。

そのディックの出店の足取りにつきましては、中国地区については資料1に掲載をさせて頂いております。そこに、特に広島では海田店を出店したわけですが、初めて広島に1号店の計画をした時に、松山では売り場面積1千平米も精一杯でした。松山方式というのがありまして、全国でも例を見ない非常に近代協の強い所です。松山方式というのは申請をしましても、各地域では申請に基づいて審議をするわけですが、1年間まとめてこの審議をすとか、またホームセンターは他の業種と違って面積を特別カットされとかいうようなことで、初めて広島の海田が2千650という面積を貰った時に実は驚いたわけであります。現在は特に近代協よりも県並びに通産の方のご指導を戴きまして、順調にそれらの愛媛県の増床を現在させて頂いているところですが、当初は随分そういったことで県外に出てみて初めて分ったというようなことで、海田に何故第1号店を出したかと言いますと、そういった厳しい環境の中で県外に出ていく場合に、一番出しやすかったそういった商調協が歓迎して頂ける所ということで、実は海田は広島市ではありませんが、まさにマツダの本社の側でして、広島市内にお客さんが流れていくというようなことで、どちらかというと歓迎をして頂いた第1号店であります。そういったこと

でその後岡山につきましても、実質は岡山市内ですが西大寺という所は流通が岡山市内とは切れていまして、これが岡山の第1号店になったわけですが、これも同じように歓迎をして頂きまして3千平米を戴いたわけです。愛媛の1千に対して3倍ということでした。尚、香川の1号店は特に高松の市内に流通が流れるという三木町で、ベルシティという全国でも珍しい商店街の再開発でショッピングセンターをやられて話題になった所ですが、ここからのご要請によって市内でなく三木町に第1号店を出店したわけです。一番新しい兵庫県は淡路島に同じように三原町にパルティという地元のショッピングセンターからのご要請で商調協のスムーズにいくところというふうなことで出店を進めたわけです。県外で本格的なホームセンター作りができたということです。特に広島・岡山に出店しまして、私どもは今広島はナンバー1のシェアですが、特に愛媛県と違いまして一人当たりの売上単価は、これも勿論愛媛県を上回りますし、1店規模の売上もかなり差異があります。現在は店舗数は決して多くありませんが、売上は既に愛媛県を中心とした四国が6割で中国側が4割で、まもなくこれは中国側の売上が追い抜くことになろうと思います。

次に地域密着の店作りということですが、それぞれ項目が4項目ほど書いてありますが、それぞれ施工して頂く建設業者にしても、また仕入れ先にしても殆ど地元でそういった発掘をしていまして、特に仕入れ先等はかなり増大をしています。尚また共同出店については、それぞれその地域に応じた所との出店も最近は加速をしているわけです。勿論従業員も中途採用および新規も含めまして、この推移もそれぞれ資料が付けてありますがご覧頂きたいと思います。

4. 中国四国の経済交流の実態

大亀：それから中国から四国へ、四国から中国へということで、私どもはどちらかと言いますと割合に県外に出店する流通業は、非常に仲間が少ないなというふうな寂しい気持ちも一面無いことも無かったわけですが、実際にお手元の資料に依りますように、かなり四国からも中国筋へ、また中国筋から四国へも多く進出をして頂いております、これらが今後お互いの交流に役立ち、また交流はビジネスが先行することがやはり交流に繋がって行くことだろうと、身についた交流ではないかなというふうに思うわけです。特に私どもでは今後三橋時代の到来ということで、瀬戸内ドミナントエリア作りの強化を進めて行っておりまして、昨年山口・兵庫に出店をすることにしまして、現在70店を目標に、将来は3桁にしていきたいなというふうに思っております。特に県外に出店していく、また県外に出ていく、この時の決断というのが非常に難しいのと思うわけです。私ども県外に出た時に、瀬戸内ドミナントエリア構想を決定した時に、やはり愛媛県で自分のシェアがない、そしてまた自分たちの得意先が非常に絞られているということですが、また一面考えてみますと、所変わればそういったシェアは見つかる

ものでして、恐らく自分たちが考えた以上に思案する以上に、他の立地に行けば恵まれた環境があることも事実だと思います。そういった面で私はいつも岡山で思いますが、岡山県に二つの金融機関がありますが、ここ以上に四国からの金融機関が岡山には各支店をだされています。金融市場では四国の金融機関が随分岡山に上陸をされています。これが引いては四国との繋がりを強めていて、他の企業も金融機関のそれらに対して非常に安心して行けるというようなことも、岡山にしては気持ちを強く持ったわけです。以上また後でお話したいと思いますが、簡単に今までの経緯を申し上げました。

5. フジのドミナント戦略と瀬戸内リージョナル・チェーン構想

東：私どもの株式会社フジというのは、先程のご紹介で広島から四国に進出したということでしたが、今も私どものグループ会社、所謂繊維のメーカー及び問屋ですがアスティという会社があります。現在東京・大阪・広島・福岡をネットに持ちました繊維のアパレルメーカーとして、約350億位の年商を持つメーカーです。これが昭和42年、その当時は社名は十和という会社でしたが、小売業を四国からスタートさせようということを意識して、第1号店を昭和42年に愛媛県宇和島にスタートしまして、



東 日出男 氏

その時から株式会社フジは本社を愛媛に置くということの意志決定をしたわけです。現在も株式会社フジの本社は松山市に設立して現在に継続しているわけです。私どものフジというのは、ご存じのように昔言われたいわゆるスーパーマーケットの展開をしてきたわけですが、一つの考え方いわゆる経営ビジョンあるいは経営戦略の中で、私どもは地方のローカルスーパー、ローカルスーパーというのは定義をすると、いわゆる一地域複数店舗を持って商圈の中でトミナントのエリアを作った企業ということを、ローカルのドミナントエリアということを位置づけています。どういうことをやったかと言いますと、日本でも珍しく愛媛県だけに集中出店をしまして、これが私どもフジの母体になってきました。集中出店をしたということはどういうことが起きるかと言いますと、その地域に於けるシェアを確実なものにしていくということと、信頼を結び付けていくということです。いろんな形で地域の人達の生活の有り様を一つ一つくみ取れるだけの力をもった企業として育つということを、私どもの操業トップが一つの地方の戦略として立てたわけです。一応その通りに愛媛県に落ちまして現在は33店舗ありますが、日本の他の県にないシェア率を確保することができました。そういう一つのドミナントエリア政策を基にして、私どもがその当時瀬戸内リージョナル・チェーンと言っていました。リージョナル・チェーンと言いましたのは、先程言いましたドミナント的エリアを持つローカルスーパーを二つ以上の地域に持つものをリージョナル・チェーンという位置づけで、

我々いわゆる流通業界用語になっているわけです。それらを踏まえて、瀬戸内リージョナル・チェーン構想を定めたわけです。

それが操業当初でしたが、昭和56年にやはり我々の愛媛県で得た一つのドミナント戦略というものを他県に戦略的に持ち込もうということで、広島に1号店の拠点を出すことにしました。その結果我々が愛媛で培った一つのノウハウが比較的通用するということ踏まえて、広島県を中心に拠点の配列をしてきました。私どもの小売業というのは、今ご存じのように動乱の時代とか激動の時代だとか言われているわけですが、それぞれの会社、それぞれの一つの企業というのは、自分の色合いをどう作るかという戦争をしているのが流通戦争だということとして、その当時から私どものフジというのは、いわゆる地域に根ざしたローカルスーパーとして生きるだけの力をつけよう、ということは先程言いました松山の地域をご覧になって頂ければわかると思います。現在44万の人口の中に13店舗の店舗を持ちまして、いわゆる拠点でありますフジグラン松山は今現在1店舗で190億円売っているわけですが、日本のチェーンストア協会8700店舗位の昨年度の個店単店の売上実績が6位でしたが、そういう一つの拠点の周りに戦艦である中ぐらいの店舗を、我々はNSCと言っていますが、配列していき、そのまた戦艦の周りに駆逐艦の小さいSSMという小型スーパーマーケットを配列していき、いわゆるドミナントエリアを形成していくというのが、株式会社フジの基本戦略です。そういうことを踏まえて、株式会社フジも現在、広島・山口・高知という先程の樺本先生のおっしゃったQルートのルート戦略と言ってもいいぐらい、株式会社フジは今現在その戦略に添った、樺本流Qルートに添った戦略を進行している最中です。地域別の店舗数は愛媛県33店舗、高知県2店舗、広島県7店舗、山口県22店舗。売上げの売上げ構成比でいきますと、四国側が66.6%、中国地区が33.4%の売上げ比になっています。

6. 流通をとりまく環境変化と物流拠点づくり

東：そういうふうに株式会社フジの概略を申し上げると共に、今流通業に何が起きているかということをお話させて頂きたいと思います。細かいことは申し上げませんが、今は低価格志向の対応、価格破壊と、皆さん方がご存じのように各新聞若しくはテレビでいろいろ報道されています。これは一つは日米構造協議その他内外価格差というものが比較され初めて、消費者も認識を新たにして価格への志向が強くなっています。もう一つは海外商品の開発です。現在は物作りがアジアに完全シフトされています。私どもが売っている衣料品の80%以上は生産拠点がアジアです。いわゆる海外商品の開発が物作りがアジアに完全にシフトされましたよということが二つめです。もう一つは、そういう競争激化が日本だけの競争に納まらないのが流通業だと思いますので、アメリカの小売業もすでにもうすぐトイザラスという玩具の小売業が入ってくるわけですが、これから先もいろいろアメリカの小売業が日本に進出することも儼然しない時代だと思います。

2～3日前の新聞にも規制緩和は政府の2000年を目処にということですから、ほぼフリーの状態になってくる時期が来ると思います。そういう時の為のローコスト店作り、いわゆる今までのようなハイコスト運営では駄目だよということで、いわゆる経営というのはローコスト時代に来ているわけで、そういうローコスト店舗作りが必要です。四つめが物流・情報のイノベーションの時代です。これは我々の小売業・流通業というのは、物の流れが9割を占め経営の決定をします。コストの中若しくは物の流れというのはただ単に運賃が安く運ばれるというだけではなく、いわゆるデリバリー・倉庫・スピード・情報・品質、そういうものを総合して物流のあり方、情報のあり方というものがどうイノベーションしていくかということが非常に大きな鍵を握る業界の一つです。一例を申しますと、先程の現在アジアから大半の製品がシフトされているということですが、私どものある衣料品メーカーの例でいきますと、アジアから今どこに上げているかという九州に集中しています。何故九州に上げるかという運賃が安く、時間距離は九州から関西地区に運ぶ時間は広島に上げてほぼ変わらないし税関が早い、これは今はまだ殺到していませんから非常に早いわけです。それから競争が激しく、何の競争が激しいかという、物流の競争が九州は非常に激烈でして、福岡インターチェンジの側にある物流団地、これを基盤にして物流業界の競争がかなり激しくなっています。そういう中から非常にコストが安く早くより便利だということで、アジアから私どもに入ってくる衣料品を見ますと、比較的九州を物流拠点に使うメーカーもあります。というふうに物流というものが、私どもが今から流通業を考えなくてはならない最大の課題ということです。それを中国四国経済の中で、どこを物流の拠点のするのかということが、私どもも思案中で最終決定はしていません。と同時にインフラの整備を含めて物流拠点作りというのは大きなテーマではないかと思えます。

柏谷：大変幅の広い議論が展開されてきましたし、また二社どちらも元気のある企業と言えると思います。これに対しまして広島の方は、こういう言わば四国側からの攻勢をどういうふうにご覧になっているかということで中村さんにお願いしたいと思います。

7. 広島における2つの失敗

中村：後ほどまた地域交流の将来像ということで発言の機会を戴くようですから、広島からご提案をするのは後ほどお話をさせていただきますので、現在の広島のことについて少し私の感じていることをお話ししたいと思います。まずその前に、私は広島に住んでいて、広島市内に住む一経済人の考え方だということをお断りしておきたいと思えます。私ども経済人が見た場合に、随分以前に決断されたことですが、いまもって大変残念だと思うことが二つあります。その一つは実はこの11月1日に広島大学の広島市内から東広島市に移転した統合移転完了式典が、西ドイツのシュミット元首相をお招きしてにぎ

にぎしく行われました。広島市内には医学部・歯学部・法経2部というような一部の学部しか残っていません。今は元の広島大学のキャンパスは本当にがらんとしているわけです。学生紛争が華やかなりし頃、広島大学も総合大学への道を歩んでいて手狭になったということも相まって、どこかに移転するか拡張するかということになった時に、学生運動もあり市民の間でも迷惑施設というような気持ちがあった所為かどうか、市議会あるいは市長も東広島市に移転することに同意をしたわけです。ご承



中村 成朗 氏

知のように広島大学は高等師範学校あるいは広島文理科大学の流れを汲む大学でして、地元にとっては誇り高き大学であります。この大学が東広島市に移転したということで、現在どんなに我々産業経済人が残念に思っているか、皆さんにもお分かりいただけるだろうと思います。慌てて広島市立の大学を作ることになって、現在開校されていますが、国立大学が市内にないということは非常に残念なことでございます。もう一つは、広島空港が広島市内から同じく県の東部の本郷町の方に移転したということで、東京便が不便になったことです。これは騒音の問題もありましたし、そのままでは海外便も飛べない、いわゆる滑走路が短いということで、残念ながらそういうことになったわけです。広島県庁から元の空港ですとタクシーで15分で行けたものが、今は50分少々かかるということです。東京便が現在10便飛んでいますし、札幌・仙台・沖縄・鹿児島・宮崎・松本と航路もふえましたが、ビジネスマンにとっては東京便が本当に遠くなったという感じですが、空港に関しては悪いことばかりではありませんで、海外便の誘致を藤田知事をトップに、いわゆるトップセールスで各国に行って誘致をしておられまして、現在ソウル・シンガポール・ホンコンに飛んでいるわけですし、来春には上海あるいはホノルル・バンコクというような海外便がこれからどんどん入ってきます。また滑走路も2500mから3000mに認可されましたので、いずれはヨーロッパ・北米・オーストラリアへの便も飛ぶようになるということで、これは良かったことも大いにあるわけです。しかし旧飛行場（広島西飛行場）を現在コミューター空港として使用していますが、東京便を何としても早く復活させて頂きたい思いです。

8. 広島における基盤整備の進捗

中村：昨年アジア大会が広島で開催されまして、このアジア大会効果と申しますかいわゆる都市の基盤整備が進んできまして、ホテルにつきましてはどんな全国大会でもお引き受けるというような規模のホテルが整いましたし、またアストラムラインという新交通で軌道系の新しい交通機関もできました。また大会のメイン会場は5万人規模ですが、それを作る為に新しく開発した地域が、将来は10万人規模の西風新都と名前をつけてい

ますがいわゆるベッドタウンになります。来年は国体を誘致することになっていますし、2002年のワールドカップの開催が日本に決まれば広島でも開催できるということで、大いに期待しているところです。と同時に先程の広島大学の跡地とか、あるいはJRの貨物駅の跡地とか、旧市内の更地の有効利用の問題があります。広島は三角洲の上に出来た町で土地が狭いわけですし、また土地の値段も高く、一般的な経済指標では広島は大体10位か11位のあたりですが、土地だけは全国で7番目位の地価にランキングされると思います。それくらい土地が高いわけですから、跡地利用の問題は大きな問題です。私ども商工会議所ではそういう物件を対象にしまして、いわゆる高度空間利用として地下街も含めていろいろご提言をしているわけです。例えばJR貨物駅には福岡のドーム球場等の目玉になるようなものも作りたいというようなことも言っているわけですが、これについてはお金がかかることですから、そのお金をどうするかということです。地元でそれが十分集められれば結構なことです、仮にそういうことが出来ないとすれば、中央からのお金を受け入れてでも是非やるべきではないかと、私は思うわけです。福岡においてもそういうことであつたと私個人としてはするわけです。地下街はお蔭で紙屋町界隈で工事が始まっていますし、去年は広島港が特定重要港湾の指定を国から受けまして、これから急ピッチで整備されるということになってきます。いわゆるコンテナヤードですが、最近はや殆ど船はコンテナで荷物を運ぶわけですから、そういう施設が大変遅れていますから急いで整備をしていきたいということです。また先程申し上げましたように、広島は土地が非常に狭いという悩みがあるわけですが、中山間地を開発して県におかれてもいろいろな工業団地あるいは流通団地などを整備されていまして、まだまだ余力があるというふうに伺っています。そういう点で是非広島のそういう団地をご利用頂いて進出して頂ければありがたいと思います。

柏谷：広島の団地を大いに利用して頂きたいということでした。それでは松江から来て頂きました景山さんをお願いしたいと思います。

9. 松江の地域性と活性化への動き

景山：「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣造る
その八重垣を」 ヤマタの大蛇を退治して高天原のヒーローとなった素盞鳴尊（スサノオ）が奇稻田姫命（クシナダ）と夫婦となり、詠んだ、喜びの詩であります。古代日本のある時期に輝いていた出雲の国、やがて大和政権の体制に組み込まれていくが、その足跡は幾多の謎に包まれながら（記紀神話）中に出雲神話、現存する唯一の完本「出雲 国風土記」また空前の発見といわれる荒



景山 一功朗 氏

神谷遺跡を始め、数々の特色ある遺跡の中にちりばめられています。全国では旧暦10月を神無月（カンナヅキ）と云い、全国の神々が出雲大社に参集する出雲の国では神在月といわれる。こんな出雲の魅力を新しい角度で多くの人々に知っていただきたいと存じます。上古の出雲は北九州と共に、大陸との貿易の中心地であり、大山は航海の絶好の目印となったし、美保関、中海は暴風雨をさける絶好の港です。「大和や紀伊は、出雲の分国」とあり出雲王朝は北九州から新潟にいたる地域を領有していた、そんな出雲の国は“表日本”とすべきなのだと水野祐氏はおっしゃる。それが島根県の県庁の所在地松江は、あらゆる機能の集積された先進地域とは全く無縁の見捨てられた地と言っても過言ではないほど、国の交通の要所からこの地までの高速道路もなければ新幹線もない、環境の整備はまったく遅れた地域と言わざるを得ません。

出雲人は保守的で消極的、閉鎖的で排他的、依存的で従属的、無口、無表情、何となく暗さが漂い、内面的で社交が下手だといわれています。但し堅実で、真面目で努力家の長所はあるが積極性に欠けファイトがない。地味で人目につかないのが特色で、下積みでモクモクと働く人が多い。ただ石見地方は同じ島根でも漁業が中心でもっと積極性があるといわれている。このように出雲人は、少し引込み思案であるとかいわれるが、一方出雲の人は調和を好み、安定思考型であると言い直すことができる。すこし自己批判が過ぎたように思いますが欠点も常に意識しておくことが肝要であると思うのであえて本音を述べましたので悪しからず。

堀尾吉晴は関ヶ原の合戦の功績により出雲の国、隠岐の国、24万石を拝領し富田城に入城したが信長、秀吉、家康に仕えた堀尾吉晴は戦が騎馬戦から鉄砲戦へ移行。富田城のような山城は鉄砲戦や兵糧攻め、水攻めに弱いというノウハウを生かし平山城を築城した。標高29mの低丘陵を選び、慶長12年（1607年）堀尾吉晴が築城に着手同16年（1611年）に完成した。明治8年陸軍省により城は競売に、あわや取り壊しとなるところを、その話を聞きつけた、城を愛する人達により城は買い戻され今に残ります。勝部氏7代目が入札の倍の価格で買い取った。（現当主11代）

この松江城も築城以来380年余が経過、石垣の修復事業や、修復のための樹木伐採問題また櫓や門の復元計画、城を取り巻く堀川浄化問題が市民の間に起こっています。大切な文化遺産を後世に残していくためには、官民あげて認識を深める努力が肝要であると思います。

城はまた様々な文化を松江に生み出しました。第七代藩主・松平治郷（不昧公）19才にして禅に入門し禅茶の道に入り、千利休を師と仰ぎながら、石州の作法を取り入れ、不昧流を完成させ、管田庵、明々庵などの茶室は不昧公が建てたものです。出雲地方は市民の間でお茶が盛んですが、江戸時代お茶はぜいたく品として庶民での使用は禁止されおよそ縁遠いものであった筈ですが、それでも好きな人は（隠れ茶屋）を建て密かに楽しんでいたので。（その客室は現存している）

茶道から普及した、銘菓、茶会席料理、ソバ、銘酒など食文化に溢れています。現在

年一回、城山公園で大茶会（七流派）合同が行われている。こうした文化・景観・この地に暮らす人々の人情などが相まって「日本の面影」と呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

やや積極性に欠けると言われる松江に変化が起こりつつある。それはトップの交代である。この交代を契機として、産官学合同でマチの活性化にむけて始動開始であります。

堀川に宍道湖の水を通年導入することが建設省、県、市、市民団体の努力と協力により実現したのがよい好例であります。

10. 松江と松山の文化観光交流

景山：松江の食文化のなりたちは、二つの点からなる。ひとつには、二つの湖（中海、宍道湖）からなる松江、寒暖流の交わる日本海、そして懐の深い山という独特の地形から、四季折々にさまざまな素材が豊かに獲れるということ。ふたつには江戸時代は日本有数の経済都市であり、今日のお店の原点、郷土料理の殆どが完成しておいたといわれます。その時代に生まれ完成された代表的な料理が後世に言う「宍道湖七珍料理」であります。宍道湖は大橋川を経て中海とつながる汽水湖で、薄い塩分を含む湖ならではの豊富な魚貝類にめぐまれている。白魚（シラウオ）、鱈（スズキ）、公魚（アマサギ）ワカサギの方言、蜆（シジミ）、鯉、モロゲエビ、鰻、これが「宍道湖七珍の材料」であります。

黒いそばの匂いがプンと香り、粗い舌ざわり。出し汁はこくのある醤油の地ものを選んで煮立て、濃いめで辛いのが好まれる。地伝酒（ジデンシュ）は麺類の香りを引き立てる作用のある調味酒でありほんの二三滴こぼした程度でよく、容器はロクロでつくった朱塗で、丸形でいくらかでも上へ重ねることができる。出雲の調味酒「地伝酒」は、出雲地方と宮崎県の一部だけといわれている。古くはもっぱら飲料に供されたが、そのご調味酒として使用され、野焼きかまぼこ、そばつゆ、など出雲料理の基調をなすものとして珍重されている。このように出雲地方独特の調味酒として地伝酒は、独特の味と風味を生み出した多彩な郷土料理を作りあげるうえで、きわめて重要な役割を果たしている。このように古くから伝わる地伝酒がなぜ出雲地方に残っていたであろうか。それは当地方が日本海、宍道湖、中海などの海の幸に恵まれ、それらと深くかかわっていたことと、当地が高い食文化の水準を形成していたことによるものと考えられる。こんな食文化は交流の目玉になること請け合いです。

柏谷：四国側のお二人には企業の経営者の実態をお話いただきまして、それはそれで大変迫力のあるお話を戴いたわけですが、中国側のお二人は地域の現状あるいは文化にわたる、わりと幅広い議論を展開されました。少し論点が違うところもあったかなと思います。先程基調講演をして頂きました榎本先生に、ご足労ですが同じセンターの仲間で

すから、四国側のお二人に対するコメントを中心にして少しお話を戴ければと思います。

11. 交流に欠かせぬ交通整備

櫛本：大変面白いお話をお聞きして感心ばかりしておりました。いずれにしても松山本社で広島等々中国側にご進出されて活躍されていることはありがたいと思っています。更に資料からもあきらかなように、松山から中国側に進出されている企業はたくさんありますので、ますますご健闘をお祈りしたいのですが、その為にはやはり広島と松山の間が自由に交流でき、広島の支社長さんがいつでも松山の本社の社長さんに会って直接話したいということがあるわけですから、もう少し交流を便利



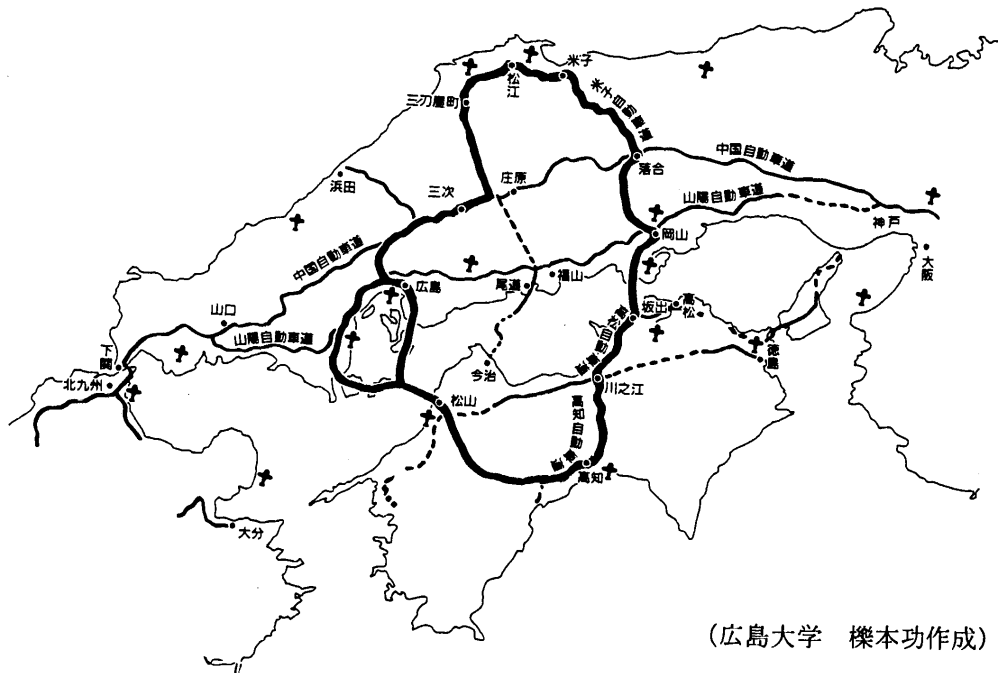
櫛本 功 氏

にしなければいけないのかなと思います。先程二山二松と申しましたが、例えば二山のうちの福山は広島から新幹線や車でも自由に行けるのですが、それ以外にローズライナーといって高速バスが広島と福山間に片道36便あります。それに最近福山の平成大学に行くバスが出ましたから、そろそろ専用の高速バスでさえ1日50便位あります。それから二山の徳山はもちろん新幹線もあれば自動車道も通っていますが、それ以外に直通の高速バスが1日20便あります。ところが殆ど同じ距離で70キロしか離れていない松山と広島の間は、コムーターは別にしますと、スーパージェットにしても1日片道14便しかありません。二山の福山や徳山と違って新幹線があるわけでもないし道路があるわけでもなく、この船に頼らざるを得ないわけです。フェリーもありますがこれはまた別の使い方をされるのでしょうか。たかだか70キロしかない広島と松山の交通の便がよくなれば、松山の本社の企業が容易に進出してこれます。そうすると経済交流が盛んになりますし、盛んになると観光や文化などいろんなものが付いてきます。広島には文化がないものですから、松山に來ると非常に心ほのぼのとした文化の香りを満喫して帰ります。そしてまた来たいというのが私ども広島市民が持っている気持ちです。今の船も確かにご努力頂いているのはよく分かりますし敬意を表しますが、やはり満足すればするほどよけいにたくさんの物を欲しがるということもあります。ですから是非松山側からも広島に容易に來れるような交通網を早く作れと言ってほしいなと思います。

12. 中国四国における交通体系の将来像

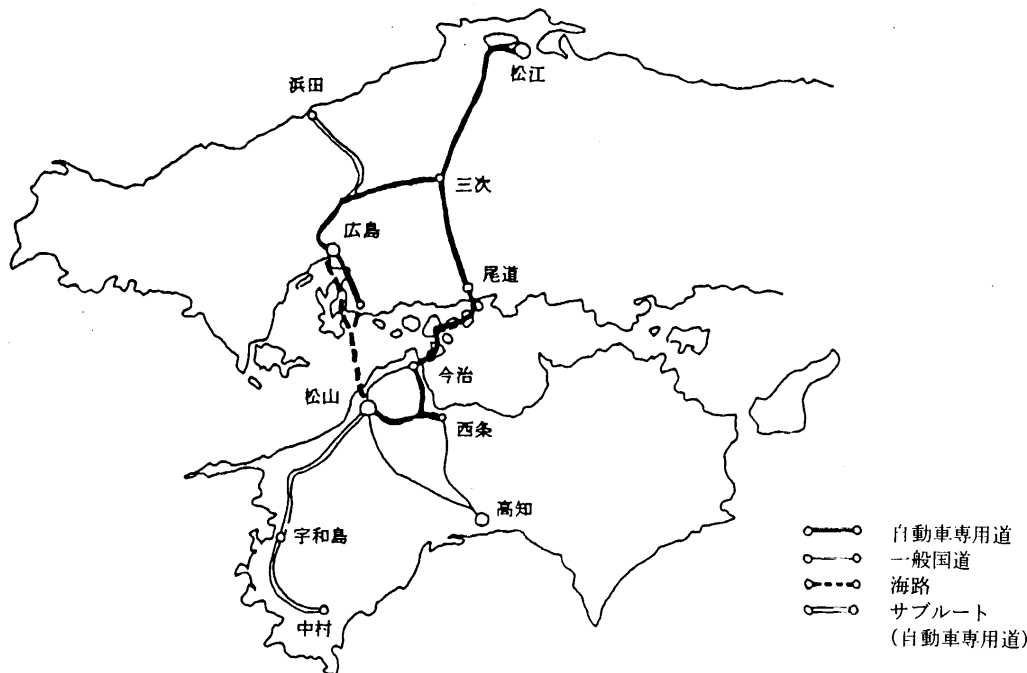
柏谷：ここで中国四国の交通体系の将来像についてOHPで説明させていただきます。これは今回の研究集会の表紙に貼ってある絵ですが(図2参照)、広島大学地域経済研究セン

図2 東三海二山ルートと西三海二山ルート



ター長は榎本先生ですから、榎本先生の仰っている安芸・防予Qルートが太い字で書かれていまして、いわゆる三海二山ルートが太い線で書かれているわけです。南北軸については東側を通る軸と西側を通る軸というのがありまして、東側を通る軸はかなりはっきりしているわけです。松江から米子を経て米子自動車道を出て、現在は中国縦貫道までの所が開通していますが、後1～2年で中国縦貫道部分と岡山間が開通します。岡山から瀬戸大橋を通りまして四国横断自動車道を通って高知に行きますから、高速道路の方はかなりできています。鉄道については岡山を起点として松江の方には伯備線が出来ていまして、ここは新しい振り子電車が走っています。それから岡山から高松の方にもJR四国が開発したディーゼルですが振り子電車のかなりいいのが走ってまして、鉄道の方につきましても高知から香川・岡山を経て松江に至るルートというのはかなり明瞭に出ています。これに対しまして松江から広島・松山・高知というもう一つの西側のルートはどうかといいますと、かなりこれがいろいろぼやけていると言いますか、たくさんのルートが考えられるとはいえますが、悪く言えばぼやけているというような恰好かと思えます。この図では安芸・防予Qルートの所にメインの黒い線がいきますが、今回は私どもの地元の松山でやっていますので私の意見を強く出させてもらいますと、やはり尾道から今治へのルートをやはり大きく取り上げてもらっていいのではないかと思いますので、ここではちょっと色を付けております。西側ルートにつきましてどういうふうに考えていくのかということですが(図3参照)、これは私の個人の議論ということになろうかと思いますが、広島側からだと一つは三次を経て松江に行くルート、そして広

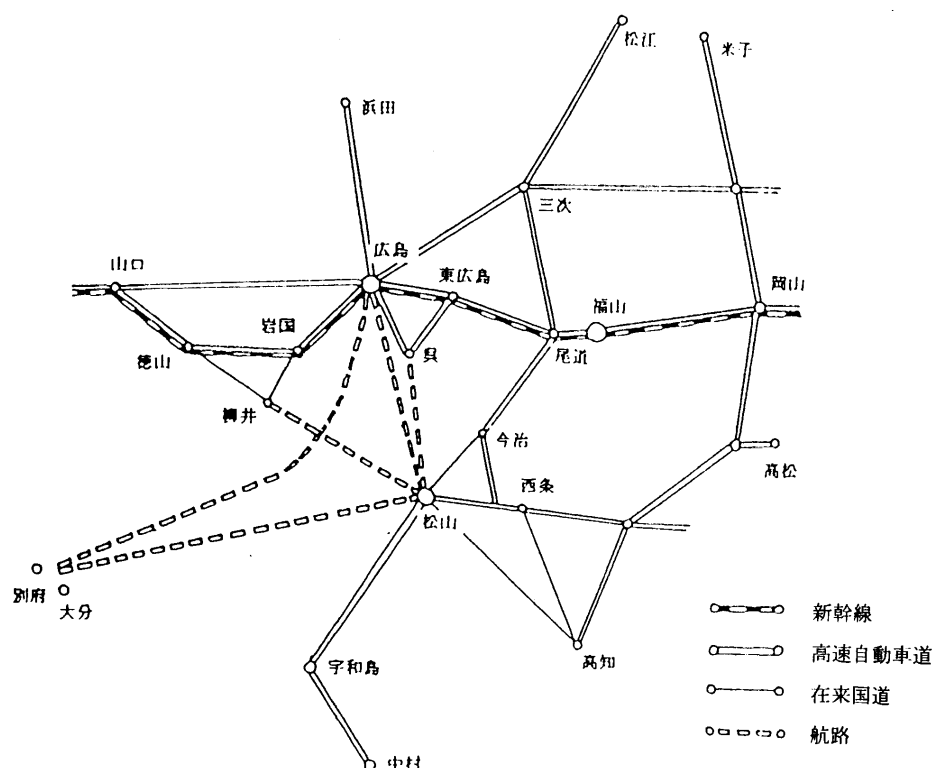
図3 広島・愛媛を結ぶ南北軸ルート



島・浜田ルートがあらうかと思ひます。一方先程言ひましたように三次から尾道に来てそれから瀬戸内海大橋・尾道・今治を通つて来るケースがあります。広島側と愛媛側をどう結ぶかという、一つは広島・松山を海路で結ぶ方式です。将来Qルートが出来れば陸路ということですが、近い将来では海上ルートにならうかと思ひます。それから尾道・今治を道路で来まして、そこから四国側とどういふふうにな高知側に結ぶかということですが、今治から西条に行きまして、西条から194号線の寒風山という大きなトンネルが抜けていますが、これを使って高知に出るルートと、それから松山から33号線で高知にでるルートが考えられます。一方私は高知だけが四国だけでなく、四国西南というのは大変魅力のある土地でして、こちらの方に松山から宇和島を経てアプローチするルートもあるのではないかとと思ひます。こういうふうにな西側のルートというのは、良く言えばバラエティに富んでいますが、悪く言えば東側のルートほどの明瞭さに欠けるというところはあるかと思ひます。

もう一つ西側と東側の違ひは、東側のルートというのはわりと直角にいろいろなものが結ばれていて、つまり東西軸が中国縦貫自動車道・山陽自動車道・四国横断自動車道・縦貫自動車道とはっきりして、そこに南北軸がほぼ真つ直ぐに通るというふうなグリッド型であるのに対して、西側のルートというのはたぶん放射状になっているのではないかと、つまり松山と広島をハブとするような放射状のルートで出来ているのでは

図4 広島・松山を中心にした交通ネットワーク



ないかと思います。これはそういうことをかなり意識して書いた図ですが（図4参照）、広島を中心としまして松江・浜田あるいは山口方面、それから徳山方面、更に海路で別府・大分方面、あるいは東広島・福山・呉方面というふうにスポークのようにずっといろんなものが伸びています。一方松山を中心としては、これから瀬戸内海大橋が架かって尾道・福山へ、あるいは広島に対する海路、そして柳井への海路、大分への海路、それから陸路では宇和島方面それから高知方面、徳島方面、高松方面というようにスポーク状になっています。瀬戸内海の西部側でいきますと、広島と松山が二つのハブになって地域連携軸ができてくるのではないかなと思っています。そういう面では広島と松山という二つのハブを強固に踏んでいくということが今後非常に大事になってくるのかなと思っています。以上簡単に説明させていただきましたが、それでは今度は地域交流の将来像について、皆様方からそれぞれの期待をお話頂ければと思います。景山さんの方からお願いします。

13. 地域間交流のための連携と協調

景山：地域間交流については、各都市の特徴を如何に近隣市町村との連携を取りながら、如何に協調して実行に移すかであります。松江市はコンベンションシティづくりを心が

けております。アフターコンベンションに恵まれる松江はくにびきメッセというホールがありますが、これは西日本地域では地耐力が最大といわれるメッセで大型機械の搬入が可能な展示ホールですから、会議は得意ではありません。したがって国民文化祭が開催可能な3000名級のものが要求される。こんな施設こそ県なり、近隣市町村と協議し無駄のない設備としたいものです。

現在職員の交流も行われている現実をみても、より一層の具体的連携が肝要であります。かつては産業や文化などに多様な南北の交流が存在していたが、太平洋ベルト地帯における交流基盤が優先的に整備されてきたことにより、これに平行した東西の交流が活発化し、南北方向の交流は弱体化しています。中四国地域全体の活性化のためにも、南北方向の交流・連携、そして日本海から瀬戸内海、太平洋に至る地域の交流・連携を促進していくことが必要であります。

14. 地域間交流とコンピューター航空

中村：私の方からは二つほど申し上げたいと思います。一つは広島商工会議所の中に正式の機関としまして、広域交流委員会という委員会を設けていまして、私とその委員長を仰せつかっています。どういうふうなスタンスで広域交流をするかということをしている現在研究中ですが、一つはやはり札幌・仙台・広島・福岡とよく比較される都市との交流です。もう一つは先程榎本先生からおっしゃって頂きました二山二松の都市との交流です。この件につきましては商工会議所レベルで松江の商工会議所それから松山の商工会議所と是非緊密なる交流を行えるように、事務方で現在話を詰めて頂いていると思っています。この点についてよろしくご指導を頂きたいと思っております。もう一つはコンピューター航空のことです。現在広島西飛行場とコンピューター航空が松山・大分・長崎・小松・新潟を結んでいます。現在の運営はJALの子会社のJALフライトアカデミー（Jエア）という会社が当たってまして、非常に性能のいい飛行機です。しかしこのJエアにはそれぞれの関係行政機関からいわゆる補助金を出して頂いて、現在それでもなお赤字ということのようです。その契約が今年切れるそうので、新しく見直さなければなりません。JALの方も大変大きな赤字を抱えていて大変だということです。しかしこのコンピューターを何とか続けて行きたい。その為には現在の路線だけでは難しいのではないかということで、松山便については高知まで延伸したらどうかということです。また出雲空港へ広島から飛ぶとか、あるいは広島－小松－新潟の便は非常に好評なんです、この小松－新潟をもっと先の仙台まで飛ばしたらどうだろうかと思います。これにはやはりまた行政からの補助金があるわけですが、関係先がたくさんになればそれだけ皆で援助しあえるということもありますし、また現在の19人乗りが30人乗りにとかそういうような飛行機になってもいいわけです。何とかこのコンピューターをこれからも稼働させるように、皆の力で支えていけたらなというような

気持ちを持っています。

15. 地域文化と地域ブランド化

東：先程申し上げましたように、私ども中国四国ネットワーク構想ということで展開しているわけでして、何が一番違いがあるかといいますと、私どものように山口・広島・愛媛・高知と持っていますと、各々の県・地域・村それぞれの文化があります。生活文化というものが根づいていまして、そこで培われた嗜好の違いとか趣味とか味覚の違いとか、いろんな日本に培われたいい文化があるわけです。そういう文化を掘り起こす、それが我々地方企業いわゆるローカル企業の主たる役割だと思っていますし、ナショナルチェーンが中央の商品を地方に持ち込む、まして私どもの使命というのは社会的役割というのは、そういう地域地域の文化を掘り起こしていくことです。ましてや今や豊富な物質文明という物はやや去っていきまして、心の時代、心の文明、心のありさまというものをどう提供していくか、もしくはどう掘り起こしていくかというのが、地域住民に対する重要なテーマではないかと、企業としてでも思っています。そういうことから地域地域のそういった培われた文化を、我々の株式会社フジのスタッフが総動員して地域ブランド化を掘り起こして行きたいと考えています。これが唯一わたしどもの地方区に根ざす企業の重要な役割ではないかと思っています。さきほどの出雲・松江、私も菓子博に参りましたが本当に素晴らしい菓子、素晴らしい伝統を持っていちゃいます。そういうふうに地域の生活文化というものを掘り起こして、いわゆる地域ブランド化を推進して行きたい、それが役割ではないかと思っています。

16. 地域情報の普及と地域間交流

大亀：先程中村さんからお話がありましたが、会議所と言わずいろんな関係団体での交流が必要だと思います。島根にしても広島にしても、また我々愛媛・松山にしてもそれぞれの地域がまだまだ知らなさすぎる。そういった点では既に松山商工会議所の流通委員会でも東さんもご一緒して頂いて、櫛本先生の流通問題のお話をいろいろ聞かせて頂いて、先般広島の商工会議所との交流を図らせて頂いたわけです。広島の流通委員会から是非松山に来たいというお話も伺っていますから、積極的に中村さんに宜しくお願ひしたいと思います。また景山さんの方もお互いにそういった組織の交流というのが、どうしても大切ではないかと思っています。これを機会にお互いの地を十分理解しあうということ。それから少し観光面のことをお話したいと思います。それぞれの地域での催しについてお互いともアピールがなさすぎるのではないかなと思います。私は5月の連休に広島に参りまして、フラワーフェスティバルがありましたが、これも意外に松山の人には知らないんです。また松山の祭りも比較的知って頂いていません。春の祭りも夏の祭

りもそうです。そういった面では私は四国はわりあい四県で夏の祭りが多く、それぞれ四県四様に夏の祭りをやっていますが、これもどちらかというと地域間で話し合いをして、やはり時期の問題もお互いに交流がしあえるような時期を狙って、松山あたりはみかんの初出荷の早生みかんがでるあたりの時に秋祭りをやるとか、最近は秋祭りも随分盛んで、新しい神輿を作ったところもありまして、そういったことでお互いの地域間の長所を出して行って交流をするということも、催し物に対する考え方でお互いの交流が根づくことになるのではという気がします。また広島の花フェスティバルも是非私どもの方にアピールを頂いて、多くの人に見せて頂きたいのをお願いしたいと思います。

柏谷：大変いいお話を聞かせて頂きました。交流が活発になるような雰囲気が醸しだされていると思います。このあたりでフロアからのご意見を戴きたいと思います。大亀さんから観光のお話がありましたが、南北軸全体の交流ということを考えますと、やはり一番最初に動きだすのは観光なのかもしれません。対岸との交流ではかなり経済的な交流は活発になっているわけですが、日本海から瀬戸内海を経て太平洋までいく全体的な南北軸ということになると、どうしても観光が先になるのかなという気もします。そういう点で本日は道後温泉旅館組合の理事長の奥村さんに来て頂いていますから、恐れ入りますが少しお話をして頂けたらと、あるいはパネラーの方にご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

17. 松山の観光振興と課題

奥村：松江の観光業者もお越しですし、私も道後で旅館をやっておりますので観光の話を少しさせていただきます。大亀さんの仰った祭りの交流は大変いいのではないかと思います。非常に参考になりました。昔は道後へは広島のお客様が非常に多く、船会社で芸予会という会を作って非常に交流が多かったのですが、最近は広島からは少ないです。もちろん山陰も少ないし、今の時期で言いますと中国筋で15%位で、四国が10%位です。広島はやはり新幹線開通ということで東西に簡単に流れられるということです。阪神大震災の影響もありまして、道後は何とか四国と中国で飯をくわなければいけないということで、広島に乗り込んでそこで招待会などをいろいろやりましたが、皆さん方はだいたい簡単に車で山陰に行きまして、山陰にも温泉地がたくさんありますから。四国にはちょっと船で渡らなければいけないからということで、今はあまり来られてないわけです。観光都市という意味では広島が圧倒的な観光都市でして、松山は残念ながら観光都市という位置づけがなされてないわけですが、他の業界では広島にやられるのではないかと我々仲間で言っています。観光の面では私どもは日本中をマーケットにする商売ですから、広島を中心として中国その他が交通の便が良くなって、今度の瀬戸内海大橋が

できることによって非常に大きなマーケットになるなと思っています。現状は申しましたように、エアの方は交通の便が大変いいのですが、あとは港の整備も遅れていまして、船の方はスーパージェットは観光客はせいぜい5%位で、完全なビジネスラインだという考え方です。ですから広島のお客様は非常に少ないので、今後やはり中国四国のお客様を50%に持っていかないと、隣接県並びに近場を50%に持っていかないと、この安近短の時代に道後は成り立たないのではないかなと思っています。全国的に九州も東北も全てそうですが、隣接県で50~60%賄っていて、後の残りを全国のマーケットで賄うというのがだいたいですが、今は道後は中国四国で約25%、後75%を全国をマーケットとして大変なセールスです。また遠くですから単価が安い客を東京の大きなマーケットでかき集めているというのが現状です。近場の交通網が整備されて、特にマイカー比率は全国的には43%ですが、道後の現状は3~5%位ではないかなということですから、交通網の整備によって松山地区は大きくお客が増えてきます。現在観光客は100万ですが、150万位は道後も目指して受け入れ体制の整備と、関係者の皆さん方にいろいろご指導頂きながら、道後の町作りも進めていかなければいけないというように思っているわけです。

柏谷：どうもありがとうございました。続きましてもう一人フロアの方からコメントを戴きたいと思っています。日本開発銀行松山事務所の野口さんをお願いしたいと思います。野口さんは松山事務所の所長という立場で、中国四国のことをご覧になって頂いていると思いますが、一方では開銀という意味での全国サイドの目も持っていらっしゃると思います。どちらのご意見でも結構ですからお願いしたいと思います。

18. 中国四国の連携における課題

野口：先程からいくつもお話がありますように、この地域連携軸を作っていく上で、ポイントといいますか今後検討していかなければならない事柄というのがいくつか出てきたと思います。私個人的なことから申しますと、実は先の四全総をやる時に国土庁の仕事をやっているとして、樺本先生の仰っていた通りその当時は四国と中国から何も出て来なかったというのは事実です。今回はその反省に立って、この中四国地域の連携をやっていくということですが、一つはインフラ整備の関係です。中国はまだましなんですけど、四国のインフラ整備は大変遅れています。相互補完をしていくという意味では、先程柏谷先生が言われた通り、松山と広島を軸にしてこの2重構想を作っていくということは大変重要なことになってくるだろうと考えています。ただ産業構造の面からいきますと、この中国四国は自立ができない、完結できないという関係にありまして、そういった意味ではこの地域連携軸の枠組みの取り方を、北九州あるいは関西といったものに少し枠を拡げていったらどうか。そこの経済力を使っていく、あるいはそこ上手く補完をしていくという関係を作ったほうがいいかなというふうに考えています。それから

行政の問題ですが、当然これは広域行政ということにも関わってきますから、やはり行政の壁というのは大変強く、この壁はなかなかベルリンの壁よりも厚いと言わざるを得ないわけです。そうしますと今やるべきことは何かと言いますと、折角こういう連携の話が出てきたわけですから、取り合えず行政の人事交流を大幅にやって頂ければと思います。この中国四国の間で県庁の方あるいは市役所の方が、それぞれ交流をしていくということで、行政能力の差とかあるいは連携軸に対する行政の温度差といったものを進めていくことが必要ではないかなと考えています。それから人と物と金ということでいきますと、先程申しましたように足らない物、松江市長に神戸株式会社の専務がおなりになったということですが、それと同じように足らない人材あるいは足らない資金、金是要するに持っている所から引っ張ってくればいいという発想でして、排他的な考え方ではなかなか難しいだろうという気がします。そういった意味で四国と中国の連携をやっていくということで、行政より先行して経済界がどんどん連携を強めていくということ、従ってそこに共催で四国経済連合会と中国経済連合会というふうに書いてありますが、できたらこれが中四国あるいは中四国経済連合会というふうに一刻も早く民間レベルで連携を強めて頂ければいいのではないかと考えています。

柏谷：フロアからお二人の意見をお聞きしましたが、パネリストの方々に何かコメントがありませんか。

中村：先程松山の観光協会の方のお話を聞いていまして、私の会社の社員旅行のことを考えていました。私は広島市内で事業をやっているとして200人位の社員数ですが、もし船がストップして翌日の会社の仕事が出来なかった場合のことをしつつ考えてしまい、社員旅行として、残念ながら道後に来させてもらったことはありません。しかし業界の会合とか家族旅行とかではやはり魅力がありますから何度もきています。そういうことを考えますと、今度の尾道からの橋が開通した時には、バスを使って来れるというのは非常に安心感があります。それから更に樺本先生がおっしゃったQルートができると、周遊路になるわけですから、そういう時代が早く来ればいいなと思いながらお話をお聞きしました。

柏谷：一応皆様方のご意見を戴きましたので、ここで樺本先生に今日のディスカッションを振り返ってのご感想という形でお話を戴ければと思います。

19. 松山と広島交流を考える

樺本：JR系のリニアモーターカーは今山梨で実験中ですが、これもやがて実用化の時代になってくるでしょう。そうすると東京から大阪まで1時間、それから第2国土軸

ということで、四国を通過して関西から九州に行くことになりましょうが、多分今は道路系で話が進んでいるかと思いますが、学者によりますとリニアで四国を通せというご意見もありまして、例えば柏谷先生の先生である天野光三先生などは、交通に関するわが国における第1人者であります、東京から大阪まで1時間で行って、大阪から四国を通過して九州に行けということをかねがね仰っています。そうするとリニアで大阪まで東京の人が行って1時間、大阪から四国を通過して九州へ1時間、途中に多分高松駅と松山駅というのは必ず出来るだろうと思いますが、一番早いスピードのリニアは高松駅に停まるだろうか、松山駅に停まるだろうか、多分どちらにも停まらないのではないかと思います。こだまクラスのリニアは停まるでしょうが、それでは面白くないということになりましょう。従って松山駅を作っても愛媛県の人達が乗るだけでは多分停まらないでしょうから、広島の人々を呼び込んで松山駅でリニアに乗せると一番早いリニアも止まるかもしれません。広島の間人が東京に行くのに、広島から松山に来て、リニアに乗って東京に行くというのが一番早くなるわけですから、松山のリニア駅は魅力があるわけです。松山と広島との間の交通が容易にできるようにしておけば、一番早いリニアも松山駅に停まるということもあり得るわけです。ちょっと先の話かもしれませんが、そういう受け皿を作っておかないと、心配したことが現実にならないとも限りません。そういう意味では広島あたりの大きな集積を上手に松山がお使い下さる必要があらうかと思います。先の話かもしれませんが、これはリニアの実験を今やっていますから、やがてそういう話題が出てくると思います。

先程中村副会頭が仰ったのですが、私はやはり広島の移転というのは、広島にとって最大の失敗だったと思います。事情は先程仰ったようなことです。私はまだ広島大学の現役の教授ですから広島の悪口を書くわけにはいきませんが、やがて定年になりまして広道を離れたら2冊の本を書こうと思っています。一つは広島をよくした3人の男という本で、もう一つは広島を悪くした7人の男という本です。この悪くした7人の男の筆頭に広道の移転を決定した元広道の学長伝というのを書こうと思っています。いずれにしても広島の人がこちらに来る、勿論広島にもお見えになって頂く、そうするとやはり魅力のあるものをもたねばなりません。例えば先程中村副会頭からありましたようにドーム球場というようなことも一つの考えだろうと思います。

私どもはリージョナル・ミニマムということを最近言っております。戦後、先進国に追いつくためには東京に全部資源を集めてやる必要がありましたが、現在のようにすでに先進国に追いついてむしろ成熟化した時代には東京に行かなければ高い機能が得られないということも困るわけですから、昔のナショナル・ミニマムとかシビル・ミニマムという時代はほぼ終わりましたので、地域ごとにあってもいいものもあるのではないかと思います。47都道府県全部とまではいかななくても、北海道に一つ、東北に一つ、中国四国に一つ、九州に一つという形でやれる時代になってきています。その一つとしてドーム球場があります。例えば関東では東京ドームがあり、中部では名古屋ドームが今建設

中ですし、関西では大阪ドームが今建設中で、九州には福岡ドームがありますが、中国四国にも一つくらいあってもいいわけで、そうしますとカープあるいはサンフレッチェを持っている広島あたりがいいのかなと思います。四国にもカープのファンがいっぱいいますから、特に巨人戦ともなればバスで大勢お見えになります。そうはいっても現在の広島市民球場では雨が降ったら駄目ですから、バスの中で今日はカープの試合は中止だと言われるのがっかりされるそうです。広島くらいだと雨が降っても野球ができるようにしろと四国の人に言われているわけですから、ドーム球場ができると雨が降っても野球ができるし、日程がこなせますから、四国の方々に広島に来て頂く魅力になるのではないかと思います。広島の人間をこちらにお呼びする種もいっぱいありますし、また広島側にもあるわけですから、お互いに交流して助け合わないという都市間競争の厳しい時代は、中四国が将来見捨てられてしまうという危機感をもっています。本日の経済人の方々の話を聞きますと、本当に面白いというか勉強になったと思っています。

20. おわりに

柏谷：私も感想を述べさせてもらいますと、今日初めて大亀さんと東さんのお二人の話をききまして、なかなか迫力のある話を聞かせて頂きまして、経営者の本当に果敢な決断力というものに本当に感銘したわけです。それから中村さんからは、広島がこれから大きく変わろうとしている姿をいろいろお話をさせて頂きまして、私どもがこれから交流をする時に、やはり松山にないものを積極的に作られていて、これからの交流のあり方についても考えさせられたというようなことを感じました。また景山さんから大変ユーモアを交じえまして、交流する時の文化の大事さを教えられたように思います。そういうふうに皆様方からいろいろな刺激を受けて、私自身は大変ためになったといえますか、ありがたく聞かせて頂いたと思っています。私自身の反省としては、企画の立て方が少し欲張った点がありまして、皆様方が聞いておられまして企画の立て方が少しまづかったと感じられたかもしれませんし、またいろいろ失礼な点があったかと思っています。その点は深くお詫びしたいと思います。この中四国の交流ということにつきましては、平成11年に尾道・今治ルートは明石に比べて1年遅くなりますが、今世紀末というのが一つのポイントになろうかと思っています。三ルートが完成しまして、四国側の高速道路もほぼ県を結ぶようになると思います。関連の道路もいろいろ整備されて、このあたりがポイントになろうかと思っています。そういう点で企業の経済交流もより活発になってきますし、また観光面での交流も大いにお客さんが行き来するということを期待したいと思っています。

最後に昨年私が聞きましたエピソードをお話させて頂きます。昨年だったと思いますが、サンフレッチェが優勝した時に、高知の若い人がサンフレッチェの応援にいきました。どういうルートで行ったかという、高知から横断道を通って瀬戸自動車道を通って山陽自動車道を通って延々広島のビッグアーチまで行って、それで優勝の興奮を味わっ

て、そして夜中にまた延々と朝の3時に帰ってきました。こういうふうに思いがけないような交流の例が若い人の中から出てくるわけでした、そういう面では中国四国の交流につきましても、今日議論させていただきました経済交流・観光交流以外に、若い人達から思いがけないような新しい交流の成果が出てくるということを期待したいと思います。以上で終わらせて頂きます。

中国四国経済交流、当社の場合

ダイキ株式会社 大亀 幸裕

1. 瀬戸大橋の完成を前に「鷲羽山の誓い」
2. 広島初出店とその後の足取り
3. 大規模マーケットの魅力
4. 地域密着の店づくり
 - ①店舗の施工は地元業者で
 - ②倍増した仕入先
 - ③共同出店で集客力アップ
 - ④就業機会の創出にも貢献
5. 中国から四国、四国から中国へ、意外に多い企業進出
6. 3橋時代と当社の企業戦略――瀬戸内ドミナントエリアづくり

資料1 ディック出店の足どり（中国地区）

開店日	出店順	店名	所在地
昭63.11.10	15	海田店	広島県安芸郡海田町栄町3-16
平2.7.19	19	廿日市店	廿日市市住吉1丁目6-24
平2.10.18	23	西大寺店	岡山市西大寺南1丁目2-9
平2.11.2	24	川内店	広島市安佐南区川内5丁目1-22
平3.5.16	25	蔵王店	福山市春日町1丁目6-45
平3.6.27	26	総社店	総社市井手字出張1113-1
平3.9.12	27	宇品店	広島市南区宇品海岸3丁目7-65
平3.10.10	28	玉野店	玉野市宇野1丁目3048-1
平4.4.23	30	三原店	三原市頼兼町2672-1
平4.5.28	31	水島店	倉敷市神田2丁目10-33
平4.10.16	32	五日市店	広島市佐伯区利松1丁目2-35
平5.4.8	34	松永店	福山市松永町字徳島塩屋浜179-8
平6.5.3	36	安芸西条店	東広島市西条中央4丁目1-1
平7.3.23	41	安芸白島店	広島市中区白島九軒9-21
平7.4.27	42	瀬野川店	広島市安芸区中野東4丁目1-37
平7.7.27	43	久米店	岡山市久米字天所2081
平7.10.26	44	北吉津店	福山市北吉津町2丁目3-18
平7.11.16	45	柳井店	柳井市南町5丁目3-10

資料2 中国地区ディック店舗施工業者

	店 舗 名	建築面積㎡	施 工 業 者
広島県	海田店	5, 3 5 0	正田建設（広島県海田町）
	廿日市店	2, 2 7 8	清水建設広島営業所
	川内店	6, 4 5 9	日成建設（広島市）
	蔵王店	1, 9 8 2	鈴木工務店（福山市）
	宇品店	3, 4 9 6	西木建設（広島市）
	三原店	2, 5 0 0	日成建設（広島市）
	五日市店	2, 4 6 7	小谷建設（広島市）
	松永店	2, 7 0 7	前田組（福山市）
	西条店	2, 7 8 0	藤木工務店（倉敷市）
	白島店	4, 1 4 7	清水・下岸・山田ジョイントベンチャー（広島市）
	瀬野川店	3, 7 6 2	大島組（岩国市）
	北吉津店	7, 9 8 9	平和建設・大成ロテックジョイントベンチャー（広島市）
岡山県	西大寺店	3, 9 4 1	松本コーポレーション（岡山市）
	総社店	2, 6 2 0	〃
	玉野店	2, 3 6 5	〃
	水島店	2, 5 8 0	鈴木工務店（福山市）倉敷営業所
	久米店	4, 0 6 5	松本コーポレーション（岡山市）
山口県	柳井店	5, 3 5 6	大島組（岩国市）

資料3 出身県別従業員数（平成7年10月20日現在。全社）

県名	正社員	嘱託・パート	計
愛媛	1,039	110	1,149
香川	46	24	70
徳島	1	0	1
高知	10	0	10
山口	8	0	8
広島	139	108	247
岡山	43	32	75
兵庫	11	4	15
その他	49	0	49
計	1,346	278	1,624

資料4 ホームセンター事業部門の県別販売実績（平成6年4月1日～7年3月31日）

県名	売上高（千円）	構成比（％）
愛媛	22,153,794	53.8
香川	2,837,195	6.9
広島	11,584,827	28.2
岡山	4,152,642	10.1
兵庫	430,691	1.0
計	41,159,107	100.0

資料5 広島県から四国へ進出している企業（いよぎん地域経済研究センター資料、帝国データバンク会社年鑑、広島経済レポート編「1995広島企業年鑑」による）

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
青山商事(株)	福山市	紳士服販売	1 8 2 3 億円	松山ほか
(株)アステイ	広島市	繊維、洋品雑貨卸	3 1 7 億円	高松
(株)あじかん	広島市	業務用食材製造販売	1 6 7 億円	松山
新ダイワ工業(株)	広島市	チェーンソー、カッター、発電機製造	1 9 0 億円	松山
(株)ダイイチ	広島市	家電販売	1 5 3 0 億円	松山
大和重工(株)	広島市	住宅機器、産業機械鋳物製造	8 7 億円	高松
(株)中電工	広島市	総合設備業	2 0 1 8 億円	松山
(株)広島銀行	広島市	銀行業	2 4 8 8 億円	愛媛13
福山通運(株)	福山市	貨物運送	2 5 5 5 億円	松山、今治、新居浜ほか
福留ハム(株)	広島市	食肉加工	3 9 5 億円	松山、高松、徳島、高知
(株)大塩するめ	呉市	海産物加工	5 1 億円	松山
(株)やま磯	広島市	海産物加工	4 2 億円	松山
(株)スグル食品	呉市	海産物加工	2 4 億円	松山
(株)三国屋	広島市	海産物加工	1 4 億円	松山
チチヤス乳業(株)	大野町	牛乳、乳製品製造販売	1 5 3 億円	松山
オタフクソース(株)	広島市	調味料製造	9 3 億円	松山
(株)ますやみそ	呉市	調味料製造	3 5 億円	松山、高知
(株)リョーカ	広島市	菓子卸	1 1 3 億円	松山、新居浜
谷口美容(株)	広島市	理美容材料販売	9 億円	松山、高知
メガネの田中チェーン(株)	広島市	眼鏡類の販売	1 4 8 億円	松山、今治
(株)京屋	広島市	陳列器具製造販売	2 7 億円	高松、松山
(株)オトフジ	呉市	継手、バルブ卸	3 1 5 億円	松山
重弘製缶(株)	広島市	印刷ブリキ缶製造	9 億円	伊予市
丸井産業(株)	広島市	建築金物製造、金型設計製作	2 9 2 億円	高松、松山、高知
(株)ダイクレ	呉市	グレーチング、熱交換器製造	2 9 6 億円	高松
サカネテクノ(株)	大竹市	プラント据付け、補修	2 4 億円	松山
東方金属(株)	呉市	製鋼原料、鋼材販売	7 9 億円	松山
(株)シーニックスアール	呉市	非破壊検査	4 2 億円	新居浜
コトブキ技術工業(株)	呉市	建設機械、化学機械販売	1 0 8 億円	松山
(株)アマノ	尾道市	建設資材販売	1 4 5 億円	松山
(株)コンセック	広島市	建設機械、資材販売	1 2 2 億円	松山
長浜産業(株)	呉市	建設機械レンタル、リース	1 8 億円	松山
(株)丸山製作所(株)丸山製作所	広島市	農業機械販売	2 1 億円	四国
(株)佐竹製作所	東広島市	穀物機械製造	5 1 0 億円	松山

※経常収益

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
豊国工業㈱	広島市	乾燥機、橋梁、水門製造	120億円	松山
石川島汎用ボイラ㈱	呉市	ボイラー、熱機器製造	61億円	高松
㈱テラルキョクトウ	福山市	ポンプ、送風機、防災機器製造	177億円	高松
㈱ユニオンオート	広島市	自動車用品小売	52億円	高知
㈱シンショー	広島市	高圧洗浄機製造販売	22億円	松山
㈱新星工業社	広島市	受配電盤製作	36億円	松山
三光電業㈱	広島市	自動制御機器製作	73億円	松山
ジェ・エム・エス㈱	広島市	医療機器販売	141億円	松山
メディカルセンターサービス㈱	広島市	医療機器の据付け、保守、修理	29億円	松山、高松
㈱猪原商会	広島市	精密光学機器販売	20億円	松山、高松
中国ヤマトハカリ㈱	広島市	はかり製造、修理販売	7.2億円	松山
㈱クマヒラ	広島市	金庫、事務用機器販売	76億円	松山、高松
㈱ミウラ	広島市	工業写真、設計製図、OA機器販売	54億円	今治
㈱東洋地図社	広島市	地形製図、地図印刷、工業写真焼付	5.1億円	高松
中川製袋化工㈱	大竹市	ポリ袋、紙袋製造	209億円	松山
ヤスハラケミカル㈱	府中市	テレピン樹脂、合成香料製造	62億円	新居浜
中・四国ケミカル商事㈱	広島市	合成樹脂製品卸、住設機器設置	83億円	高松、松山
船入糧工㈱	広島市	配合飼料製造販売	56億円	丸亀
エグゼー・ドリームバグ㈱	広島市	ベッド、寝装品卸	74億円	高松
㈱アンネルベッド	広島市	ベッド、家具製造	51億円	今治
㈱リーベット	広島市	ベッド製造	16億円	香川、松山
浜本工芸㈱	広島市	家具製造	23億円	松山
㈱住建産業	広島市	木製品製造	501億円	高松
坂光家具㈱	広島市	家具卸	11億円	松山
復建調査設計㈱	広島市	測量、地質調査、設計施工管理	154億円	松山、高松
㈱荒谷建設コンサルタント	広島市	測量、地質調査、土木設計	56億円	松山
㈱日航コンサルタント	広島市	航空測量、土木設計	9.8億円	松山
㈱LAT環境設計事務所	広島市	建設コンサルタント、設計、測量	6.3億円	松山
栄相互設計㈱	広島市	建設設計	4.5億円	四国
大新土木㈱	呉市	建設業	385億円	松山
極東工業㈱	広島市	建設業	203億円	松山
洋伸建設㈱	広島市	建設業	200億円	松山
大之木建設㈱	呉市	建設業	134億円	松山
㈱青木組	尾道市	港湾土木	73億円	新居浜
中国工業㈱	呉市	給排水工事、冷暖房工事	14億円	松山
㈱ウエスト	広島市	屋根、建築工事	44億円	松山、高松
大亜工業㈱	広島市	電気工事	70億円	新居浜

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
大昌工芸㈱	広島市	総合ディスプレイ	103億円	松山
(有)加ダソール	広島市	インテリア加工卸、内装工事	4.3億円	松山
宮地電工販売㈱	尾道市	電気製品販売	31億円	松山、高松、大分
㈱柴窓	広島市	塗装	18億円	松山
山陽建工㈱	広島市	避難バリ台、防球ネット、焼却炉販売施工	10億円	高松
㈱オービス	福山市	梱包材、組立ハウス販売	109億円	松山
㈱シンギ	広島市	食品容器製造販売	113億円	高松
朝日精版印刷㈱	広島市	印刷	20億円	松山
(株)広島アクションサービス	広島市	損保代理業、旅行代理店業	3.3億円	今治
中国ハウス工業㈱	三次市	住宅リフォーム	8.9億円	松山
(株)合人社計画研究所	広島市	マンション総合管理	13億円	高松、松山、徳島、高知
瀬戸内海汽船㈱	広島市	海上旅客輸送	68億円	松山、今治
防予汽船㈱	広島市	海上旅客輸送	42億円	松山、高松
呉・松山フェリー㈱	呉市	海上旅客輸送	16億円	松山
(株)総合旅行サービス	広島市	添乗派遣、観光ビデオ販売、写真撮影	6.7億円	高知、松山
室尾冷凍運輸㈱	呉市	冷凍冷蔵運送	71億円	高松
島井運輸㈱	広島市	一般区域貨物輸送	5億円	松山
広島回送㈱	広島市	一般区域貨物輸送	18億円	徳島
山尾産業㈱	広島市	燃料、建材、機械工具卸売	28億円	高松
アシード㈱	福山市	自販機運営	112億円	坂出、松山
(有)広島県リース	広島市	おしぼりリース	4.8億円	松山
中元クリーニング㈱	上下町	クリーニング、寝具製造	58億円	新居浜、高松
中国ハイパス工業㈱	広島市	汚水浄化施設維持管理	4.4億円	松山
西日本シンクタンク	広島市	コンピュータソフト、ハード開発	11億円	松山
(有)中国移動無線センター	広島市	移動通信サービス	9.5億円	松山
㈱中四国リクルート企画	広島市	求人情報サービス、教育事業	8億円	松山

資料6 岡山県から四国へ進出している企業（いよぎん地域経済研究センター資料、帝国データバンク会社年鑑による）

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
アイサワ工業㈱	岡山市	建設業	643億円	高松、松山
㈱大本組	岡山市	建設業	1302億円	松山
オハヨー乳業㈱	岡山市	牛乳、乳製品製造	288億円	松山
カバヤ食品㈱	御津町	菓子製造	187億円	松山
はるやま商事㈱	岡山市	紳士服販売	451億円	松山ほか
高山産業㈱	岡山市	高圧ガス、燃焼器具卸	49億円	高松
大和コンクリート工業㈱	岡山市	コンクリート二次製品製造	101億円	高松
㈱ウエスコ	岡山市	測量、設計、調査	54億円	松山、高松、高知、徳島
㈱ニハコンサルタント	岡山市	測量、設計、調査	67億円	松山、高松、高知、徳島
ライト電業㈱	岡山市	制御装置販売	71億円	高松、松山、川之江
彦崎通運㈱	岡山市	貨物運送	121億円	高松
丸福釣具㈱	笠岡市	釣具卸小売	67億円	松山
日本植生㈱	津山市	人工芝製造	162億円	松山、高松
㈱山陽新聞社	岡山市	新聞発行	179億円	高松
山陽放送㈱	岡山市	民間放送	109億円	高松、丸亀
岡山放送㈱	岡山市	民間放送	80億円	高松、丸亀
テレビせとうち㈱	岡山市	民間放送	31億円	高松

資料7 山口県から四国へ進出している企業（いよぎん地域経済研究センター資料、帝国データバンク会社年鑑による）

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
呉興業㈱	岩国市	化学機械製造	7 2 億円	松山
帝人冷蔵㈱	岩国市	冷凍魚、冷凍食品卸	6 5 億円	高松、松山
三晃特殊金属工業㈱	岩国市	工業用メッキ、機械組立加工	4 1 億円	松山
㈱サンデーサン	新緑町	レストラン	2 6 1 億円	松山ほか
㈱シマヤ	徳山市	調味料製造	1 6 5 億円	高松、松山
㈱木原製作所	秋穂町	乾燥機、園芸用暖房機製造	2 5 億円	松山
㈱山口銀行	下関市	銀行業	※1 7 9 5 億円	松山

※経常収益

資料8 愛媛から中国地区に進出している企業（いよぎん地域経済研究センター資料、
帝国データバンク会社年鑑、愛媛経済レポート別冊「'96会社年鑑」による）

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
ヤマキ㈱	伊予市	食品製造販売	357億円	広島
日本食研㈱	今治市	調味料、食品機械、梱包資材製造販売	342億円	広島、岡山、岐阜
マルトモ㈱	伊予市	食品製造販売	300億円	広島
㈱ビージョイ	松山市	畜産加工、仕出料理	76億円	広島
大濱漁業㈱	御荘町	漁業	42億円	下関
大祐漁業㈱	御荘町	漁業	7.8億円	下関
㈱乳販	松山市	乳製品、清涼飲料水、菓子卸	18億円	岡山
㈱あわしま堂	保内町	生菓子製造卸	77億円	岡山、広島
㈱イカワ	松山市	玩具、菓子製造卸	39億円	岡山
㈱母恵夢	松山市	菓子製造販売	25億円	広島、岡山
田窪㈱	今治市	縫製副資材卸	61億円	広島、山口
ダイヤ服㈱	松山市	繊維卸	5.1億円	広島
杉山縫製㈱	今治市	ニットシャツ、カジュアルパンツ製造	4.8億円	松江
㈱マツガン	松山市	玩具卸、人形製造	80億円	広島
㈱レジャーライフ	川内町	園芸資材、レジャー用品卸	25億円	広島
㈱青木シューズ	松前町	靴卸	15億円	広島
㈱おおにし	松山市	ペット用品卸	9億円	広島
カミ商事㈱	伊予三島市	紙、パルプ、製紙原料卸	841億円	広島
タイカワ商事㈱	伊予三島市	紙、パルプ、化成品、建材販売	300億円	岡山
タックスシステム㈱	川之江市	粘着製品製造販売	172億円	広島
愛媛製紙㈱	伊予三島市	段ボール原紙、家庭用紙製造販売	152億円	岡山、鳥取
トーヨー衛材㈱	川之江市	紙おむつ、製紙メディカル製造	86億円	広島
伊予段ボール工業㈱	伊予三島市	段ボール製造販売	60億円	岡山
㈱田原材木店	松前町	内地材製造加工販売	4.2億円	広島
福助工業㈱	伊予三島市	合成樹脂製品製造	467億円	広島
日泉化学㈱	新居浜市	合成樹脂原料、加工品、電子工業資材製造	334億円	広島
㈱東亜ヒューム管	東予市	ヒューム管製造	8.2億円	広島
四国溶材㈱	今治市	溶接棒製造販売、各種溶材販売	56億円	三原
大興金属㈱	伊予三島市	鋼製建具製造販売	13億円	広島
㈱神野忠夫商店	新居浜市	各種金属容器卸	3.5億円	広島
井関農機㈱	松山市	農業機械製造販売	1209億円	広島
三浦工業㈱	松山市	ボイラー製造販売	406億円	広島、岡山、鳥取
潮冷熱㈱	大西町	冷暖房、冷凍冷蔵装置製造販売	28億円	広島
新和工業㈱	松山市	機械器具製造	22億円	田布施
晃産業㈱	今治市	船用機器、省エネ機器製造販売	21億円	広島

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
㈱山本農機商会	今治市	農機具修理販売	3 億円	広島
ウインテック㈱	松山市	コンピュータハード、ソフト開発、機械設計	1.8 億円	広島
(有)アサヒ技研	松山市	省力機、自動機設計製作	1.2 億円	広島
渦潮電機㈱	大西町	電気配線工事、配電盤、電機機械製造	112 億円	広島
東芝計装㈱	松山市	産業用電機機械器具製造	41 億円	広島
愛建電工㈱	松山市	電気工事材料卸	41 億円	広島
ダイコー通産㈱	松山市	電話、CATV、通信機器材料卸	20 億円	岡山
㈱瑞穂電気製作所	松前町	配電盤、電気機器製造	7.3 億円	広島
岩城興業㈱	岩城村	船体ブロック製造	43 億円	因島
四国名鉄運輸㈱	松山市	運輸業	148 億円	広島
一宮運輸㈱	新三崎	貨物運送、倉庫業	183 億円	尾道、小郡
日本興運㈱	伊予三崎	陸運、海運、倉庫業	102 億円	鳥取、広島
内海曳船㈱	松山市	港湾タグボート業、船舶代理店業	59 億円	松山、尾道、広島
昭和海運㈱	今治市	海運業	10 億円	三原
㈱ホクト	松山市	石油類、コンピュータ、防災設備販売	9.2 億円	広島
㈱一宮工務店	長浜町	建設業	94 億円	岡山
アイエン工業㈱	今治市	建設業	63 億円	呉
㈱門屋組	松山市	建設業	39 億円	広島
神村鉄工㈱	今治市	建設業、金属製品製造	38 億円	岡山
アイワ技研	新三崎	機械設計	6.4 億円	広島
㈱親和技研コンサルタン	松山市	上下水道設計、土木設計、施工管理	6.1 億円	広島
㈱根津建築事務所	松山市	測量、建設コンサルタント	2.5 億円	広島
㈱連合企画設計	松山市	建築企画、設計監理	1.1 億円	広島
㈱アルテ・カーサ	松山市	建築設計監理、都市開発計画	0.3 億円	岡山
㈱浪速設計	今治市	建築総合コンサルタント	非公開	広島
㈱セカイフジ	今治市	物置、収納庫、ガレージ販売	75 億円	松山、広島、下関
愛媛建材㈱	松山市	建築土木資材卸、施工	69 億円	広島
正和商事㈱	松山市	土木建築士材卸、施工	67 億円	岡山
㈱タステム	新三崎	鋼製建具製造販売	21 億円	広島
㈱ビルド商会	松山市	建築材料販売施工	9.2 億円	広島
フジワラ化学㈱	東予市	塗壁材製造販売	28 億円	広島
(有)志賀商会	今治市	塗料、機械工具、船舶用品販売	15 億円	尾道
㈱バستمマツザワ	松山市	包装資材卸	50 億円	岡山、広島
㈱エニックスシステム	松山市	情報サービス	11 億円	広島
㈱東洋印刷	松山市	OA用ラベル、シール、パッケージ印刷	44 億円	広島
㈱伊予マーク製作所	松山市	金属、プラスチック等特殊印刷	5.3 億円	広島
㈱西日本広告センター	松山市	新聞折込広告	85 億円	岡山、松山、広島、松江

企 業 名	本 社	事 業 内 容	年 商	進 出 先
㈱愛媛新聞社	松山市	日刊新聞発行	1 6 9 億円	広島
南海放送㈱	松山市	民間放送	8 4 億円	広島
愛媛放送㈱	松山市	民間放送	6 4 億円	広島
㈱伊予銀行	松山市	銀行業	※ 1 6 6 1 億円	岡山3、広島8、山口1
㈱愛媛銀行	松山市	銀行業	※ 6 5 5 億円	岡山1、広島3
㈱ニッシン	松山市	金融	1 2 1 億円	中国地区
㈱フジ	松山市	スーパーマーケット	1 6 8 0 億円	広島6、山口2
ダイキ㈱	松山市	ホームセンター	6 6 9 億円	広島12、岡山5、山口1
㈱そば吉	松山市	飲食業	1 1 億円	広島
西日本観光㈱寿苑	松山市	旅館業	7 . 2 億円	広島
㈱ファーム	西条市	観光牧場経営	1 4 4 億円	山口、広島、岡山
鷹の子温泉開発㈱	松山市	公衆浴場、飲食、旅館	4 . 5 億円	呉
㈱デジタルサービス	松山市	一般旅行業	7 0 億円	広島、岡山、高松、岡山
㈱コモダ	松山市	総合商社	8 億円	広島
愛媛県青果連	松山市	ジュース、段ボール、肥料製造販売	5 5 7 億円	広島

※経常収益

資料9 中国四国経済交流最近の動き（「週刊愛媛経済レポート」から）

年 月	事 例
平成5年9月	㈱アイ・エス・ディー（今治市）、広島県東部をエリアとする福山支店を開設。同社は歯科技工所の県内最大手。
平成6年1月	㈱テクノイシイ（松山市）、広島市中央区に初の出先となる広島営業所を開設。同社は石井工業の子会社でソフト開発業者。
平成6年4月	㈱アイ建築設計工務所（広島市）、今治市泉川町で分譲マンションの分譲を開始。今治市で2棟目。
平成6年4月	伊予銀行、南海放送、愛媛新聞社等が出資して愛媛フットボールクラブ（松山市）を設立。指導はJリーグのサンフレッチェ広島が担当。
平成6年5月	マネージメント・インフォメーション・システム㈱（広島市）、松山市保免上に、四国初拠点となる松山営業所を開設。同社はOA・事務機の低価格販売業者。
平成6年5月	ダイキ㈱（松山市）、東広島市西条中央にディック安芸西条店を開店。
平成6年9月	㈱すわき（岡山市）、伊予三島市下柏町に売場5760㎡で5条申請。すわき店は同店が県内初。
平成6年10月	伊予鉄道㈱、都市間高速バス松山－岡山線を開設。共同運行会社は、両備バス、下電。
平成6年9月	㈱ザメディアジョン（広島市）、四国地区総代理店資格を取得し、営業を開始。同社は企業広告、就職情報誌を出版、ダイヤモンドビッグ社の代理店。
平成6年10月	ブラニフ㈱（倉敷市）、新居浜市田所町に同社初の小売店を出店。同社は新居浜に工場を持つ紳士服メーカーで、自社ブランドの初店舗を出店。
平成7年3月	ダイキ㈱（松山市）、広島市中区白島9軒町に、ディック白島店を開店。
平成7年4月	㈱マリモ（広島市）、今治市内で同社として4棟目となる分譲マンションを計画。
平成7年4月	ダイキ㈱（松山市）、広島市安芸区中野東にディック瀬野川店を開店。
平成7年4月	㈱レジャーライフ（川内町）、広島県本郷町に物流センターを新設し、中国地区で拡販へ。
平成7年10月	西日本メルテック㈱（広島市）、県内で松山に次ぐ営業所を八幡浜市に開設。同社は三菱電機グループ。エレベーターの総合管理サービス会社。
平成7年6月	㈱クリア（岡山市）、6年5月に開設した伊方工場に続き、保内町に工場を開設。同社は縫製業者。
平成7年7月	ダイキ㈱（松山市）、岡山市久米にディック久米店を開店。
平成7年10月	ダイキ㈱（松山市）、福山市北吉津町にディック北吉津店を開店。
平成7年12月	㈱明屋書店（松山市）、下松市に山口県1号店をオープン予定。